

林業技術センター
普及班便り
(第22回)

いわての林業人

一 はじめに

今月の普及班便りでは、これからの岩手の林業の担い手、山に活力を与える若い力に目を向けたいと思います。

今回は、一関地方森林組合で作業員をされている斉藤啓さんをご紹介します。



斉藤 啓さん

二 人物紹介

【プロフィール】

斉藤さんは一関市生まれ。市内の高校を卒業され、県内のスキー場などで勤務後、山仕事を始められました。

そのきっかけは「ひよんなこと」だった、と語る斉藤さんですが、外で体を動かす機会が多かったため、

抵抗なく山仕事に入ることができたそうです。

日頃は一関地方森林組合の作業員として、一関の森林整備の一翼を担い、組合青年部の若手メンバーとして林研グループ活動にも力を入れています。

また、非常に多趣味で、チェーンソーカービングのほか、スノーボードやサーフィンなどのエクストリームスポーツもされているとのこと、非常にアクティブな毎日を送られています。

三 山での活動

(1) 山の仕事

斉藤さんは山仕事を始めて今年で8年目、初めて行なった仕事は枝打ちだったそうです。



この日は造材作業中でした

その後、造林・下刈など様々な作業で経験を積み、今では伐採・搬出班としてフォワーダでの伐出作業などに従事されています。

フォワーダは最近導入されたもので、まだ操作に不慣れな面もあるのですが、搬出作業が大きく改善されたとのこと。生産性を更に高めるため、「プロセッサなどほかの機械と組み合わせられれば」と意欲を示していました。

(2) 人との出会い

斉藤さんがチェーンソーカービングを始めたのは、岩泉町釜津田在住の西間健さんとの出会いがきっかけでした。

平成17年に一関市で西間さんを招いた講習会が開かれ、そこで初めて行なったチェーンソーカービングに「すっかりはまってしまった」そう、その後時間も見つけて様々な作品を作られたそうです。作品製作時には動物の骨格等を本で調べて参考に行っているとのこと。

昨年は東北大会にも出場したほか、イベントでデモンストラーションをされるなど、チェーンソーカービングアーティストとしての一面も持ちます。



愛用のハスクバーナ

西間さんとの交流はその後も続き、今では東北のチェーンソーカービング仲間と定期的に交流しているそうで、仲間たちとの語らいが楽しみだそうです。

斉藤さんに今後の目標について伺ったところ、「西間さんのように高い技術を身に付けたい」とのことでした。

四 おわりに

普及班便りでは、これからも森林・林業に携わるさまざまな方々を紹介していきます。

皆様の地域で活躍されている方がおられたならご連絡ください。

林業技術センター普及班